



もおかもめん  
真岡木綿のおひなし



きょうは「もおかもめんファッションショー」を  
みにきました。みんなきれいなきものにうっとり。  
するととつぜん「あ！」と、おにいちゃん。  
あのくろねこです。いちこもきづいたようです。



おにいちゃんと いちこは  
そっと、ねこをおいかけました。  
「みつけた！」  
「ねこ、ぬの もってる！」

「もおかにすむねこは みんな、もおかもめんを  
いちまい もっているのさ。」

そういって、ねこは ばさばさっと  
ぬのを ひろげて みせてくれました。

「これは ほくが こねこだったころの  
おもいで。」

「へえ!」「へー。」



むかしむかし このあたりには  
わたの はたけが たくさんあった。  
わたから「もめん」という  
ぬのを つくっていたんだよ。



かわで もめんを  
さらすのも  
よくみたなあ。





「もめん」といえば「もおか」というくらい  
もおかの もめんは だいにんきだったんだ！  
えどのひとつたちは みんな もおかもめんを  
きていたのかも しれないね。



それから じだいが かわって  
がいこくから やすい いとや  
ぬのが はいってくるように なった。  
「もおかもめん」は だんだん  
つかうひとも つくるひとも  
いなくなって いったんだ・・・



「ま、こんなところさ。」

おにいちゃんは、あれ？とおもいました。

「でもさ、もめんの ファッションショーを みたよ。

もめん、いまも つくっているよ。」

「そうだね じつは…」

ねこが こたえようと したとき…

「いちこー、おにいちゃん！」



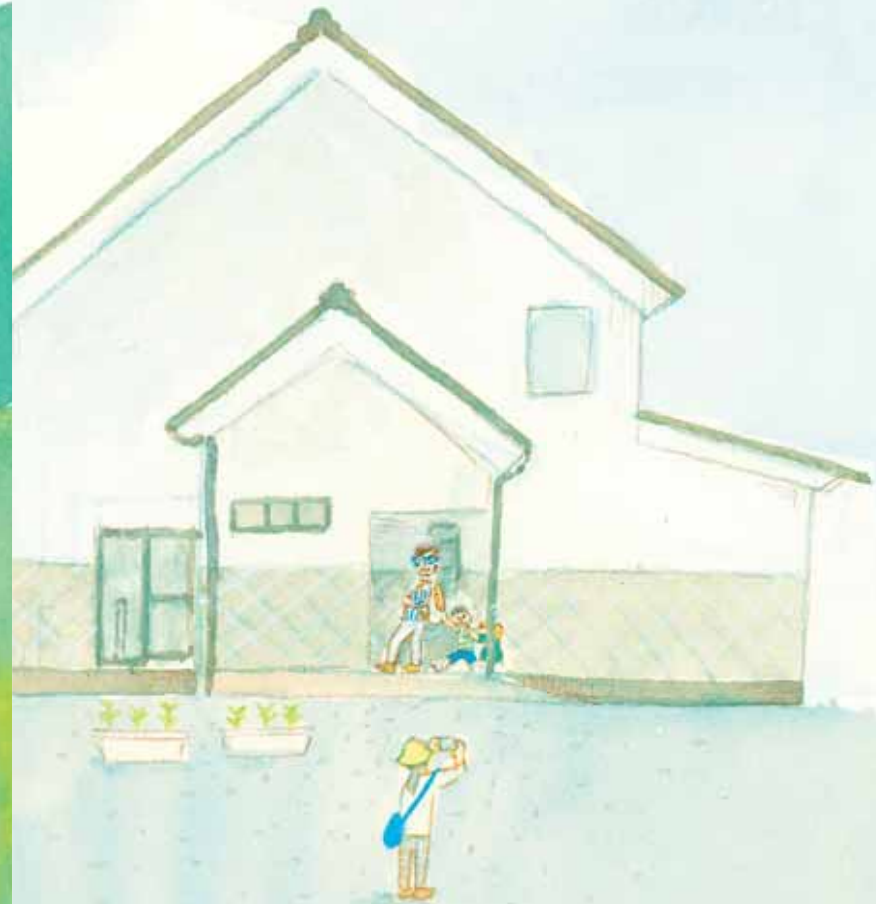
「いきなり はしりだすから  
びっくりしたじゃない！」  
「どうしたんだい？」  
しんばいそうな  
おとうさんと おかあさんです。  
「ごめんなさい。」と おにいちゃん。



「もめんかいかんに いってごらん。」  
おにいちゃんと いちこにだけ きこえる  
ねこのこえです。

「もめんかいかん！」「もめんかいかん！」

もめんかいかんは くら のような  
たてものでした。

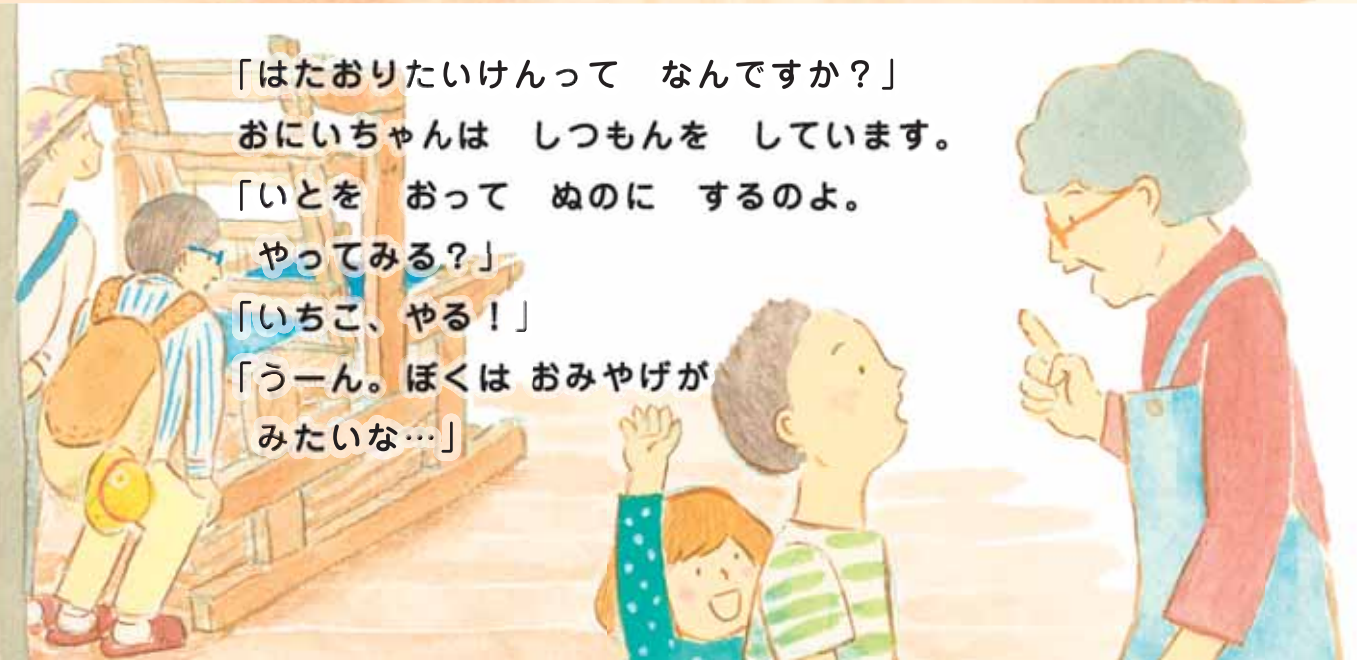





「もめんって むかしのひとが つくっていたんでしょ？」  
おにいちゃんは おとうさんに ききました。  
「そうそう。よくしってるなあ。でもね、いまのひとが  
このぎじゅつを のこしたいって がんばってるんだよ。」  
「へえ！」



はたおり  
たいけん  
やります。



「はたおりたいけんって なんですか？」  
おにいちゃんは しつもんを しています。  
「いとを おいて ぬのに するのよ。  
やってみる？」  
「いちご、やる！」  
「うーん。ほくは おみやげが  
みたいなの…」

An illustration showing a woman with dark hair in a ponytail, wearing a white long-sleeved shirt, sitting on a wooden stool. She is looking towards a young child with short brown hair, wearing a blue and white polka-dot shirt. The child is leaning over a large wooden loom, which is set up on a wooden table. The loom has many threads stretched across it, and the child appears to be working on it. The background is a simple, warm-toned room with a window. The overall style is soft and illustrative, typical of children's books.

いちこは おかあさんと はたおりたいけんを しています。  
「ここを とおすんだって。いちこ、そっちから とれるかしら？」  
はたおりきと たくさんの いとに、いちこはわくわく。  
カットン コットン  
さて、なにができるのでしょうか？

おにいちゃんと おとうさんは  
おみやげを えらんでいます。  
「これ、おかあさんの エプロンのいろ！」



「いちごがつくれたんだー。」  
いちごはずっと にこにこ しています。  
「かわいいコースターが できたね。」  
と おとうさん。  
「ほくもつくりたいな！  
みんなのぶん、つくってあげるよ！」  
「うふふ。たのしみ。また いこうね。」  
おかあさんが うれしそうに いいました。







# 江戸時代には年間38万反を生産し、 木綿問屋がこぞって求めた「真岡木綿」

江戸時代「真岡」といえば、そのまま木綿の代名詞となっていました。丈夫で質が良く、絹のような肌触りの真岡木綿は絶大な人気を誇り、江戸時代の文化・文政・天保のころには年間38万反を生産し、隆盛を極めました。

当時、江戸の木綿問屋は、こぞって真岡木綿を求め、関東木綿の仕入れ高の約8割が真岡木綿であったという記録(真岡市史)があります。しかし、開国による輸入糸流入などにより、徐々に衰退してしまいました。その後、昭和61年に真岡商工会議所が中心となって真岡木綿の「復興」に着手しました。最初はうまくいかないことが多かったのですが、現在では13人の織姫が昔からの伝統を受け継ぎ、新しい感覚で真岡木綿をよみがえらせました。そして、綿花の栽培、糸紡ぎ、染め、織りまでをすべて手作業で行う木綿本来の風合いを、今に伝えています。



真岡木綿問屋前のにぎわい  
(金鈴荘所蔵のうちわ)



真岡木綿を扱う問屋の商標  
(塚田元成氏所蔵)



上質の晒木綿(福原呉服店所有)



昭和30年代ごろの機織り風景(広瀬氏所有)



## 『綿の実』

木綿(もめん)は、綿花の種子から取れる繊維のことで、綿花は開花後、成熟したさくが開裂し、綿毛に覆われた種子が出てきます。春に種をまき、秋に実を付ける一年草です。

### 【栽培時期】

種まきは5月上中旬頃で、開花は7月頃、収穫は10月頃。

綿花栽培は、一つひとつが手作業です。「いい綿になって」と心を込めて作っています。台風などの災害や害虫に悩まされることも少なくありませんが、秋に収穫した綿をながめている何気ないひとときに幸せを感じます。



綿花生産  
さとう よしお  
佐藤 義男さん

江戸時代初期、銭湯の普及に伴って、江戸では浴衣が大ブームとなりました。真岡木綿は、染め上がりの評判が良かったので、浴衣として好んで使われるようになりました。江戸時代後期、荒町にあった真岡木綿問屋の塚田家と小宅家が江戸への取引を行い、真岡木綿は爆発的な広がりを見せました。しかし、天保の改革によるぜいたく禁止令をきっかけに、真岡木綿もその制限を受けてしまったそうです。



真岡木綿を研究している  
うえはら よしお  
上原 祥男さん



### 綿の種取り

摘み取られた綿から種を取り除く作業です。



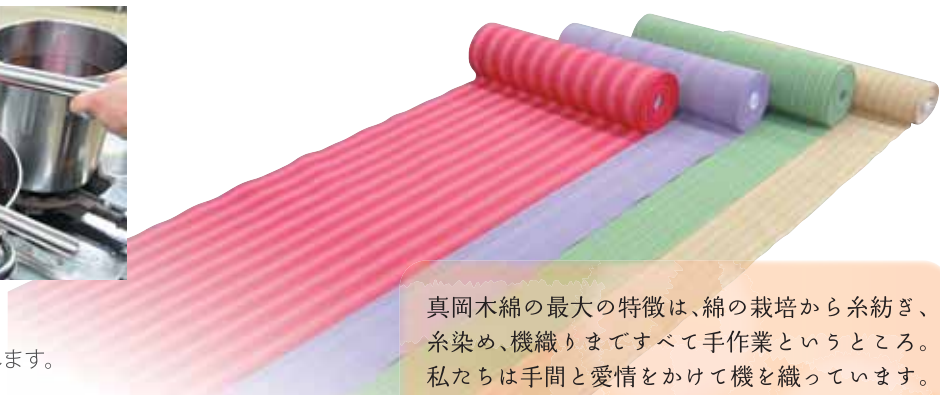
### 糸紡ぎ

種を取り、繊維をほぐした綿を糸車を使って紡ぎ、糸にします。



### 糸染め(染色)

草木や藍、化学染料で染色します。



真岡木綿の最大の特徴は、綿の栽培から糸紡ぎ、糸染め、機織りまですべて手作業というところ。私たちは手間と愛情をかけて機を織っています。是非、手にとって、真岡木綿の良さと温もりを感じてください。



### 綜統通し

男巻きした経糸を、機の先端に取り付け綜統通しをします。これは、針金の途中にある輪の中に糸を通す作業です。



### 機織り

箄通しした糸を、織り機の手前の布に固定し、織り始めます。踏木を交互に踏みながら、綜統を上下させ、その間に杼(シャトル)を使って、緯糸を一本一本入れながら布を織っていきます。



染色工房



生産・見学工房



真岡木綿会館 織姫代表  
栃木県伝統工芸士  
花井 恵子さん

真岡木綿は、故きを温ねて新しきを知る。まさに温故知新だと思えます。織り手の愛情が感じられ、着物の着心地も肌にしっとりなじむので、何度も着たくなりました。ペンケースなどの小物もおすすめてです。



ミスコットン 2014  
中田 祐子さん



名刺入れ



箸入れ

Ichiko and her family went to see the Moka Momen fashion show. There, a talking cat told them that Moka Momen had been in fashion during the Edo period. "Go to the Moka Momen Kaikan," said the cat. Everyone went to the Moka Momen Kaikan, where they learned that Momen (cotton) is still being made today. Ichiko tried weaving and made a cute coaster.

"Ichiko" 全家来观看真冈木棉的时装秀。在这里，那只会说话的猫告诉Ichiko "真冈木棉" 在江户时代就已经流行了。猫建议说："你们可以去看看 '真冈木棉会馆' 啊"。于是，大家去了 "真冈木棉会馆"，并了解到现在仍在生产木棉。"Ichiko" 初次尝试了织布，还制作了非常可爱的杯垫。

`Ichiko` e sua família foram assistir o desfile de modas do Moka Momem (Algodão de Moka). O gato falante explicou que o `Moka Momem (Algodão)` era a moda na era de EDO. Gato disse: Visitem o Moka Momem Kaikan`, e todos foram visita-los. Eles descobriram que o fio de algodão ainda é fabricado, e `Ichiko` experimentou a tecelagem e confeccionou um lindo porta copo.